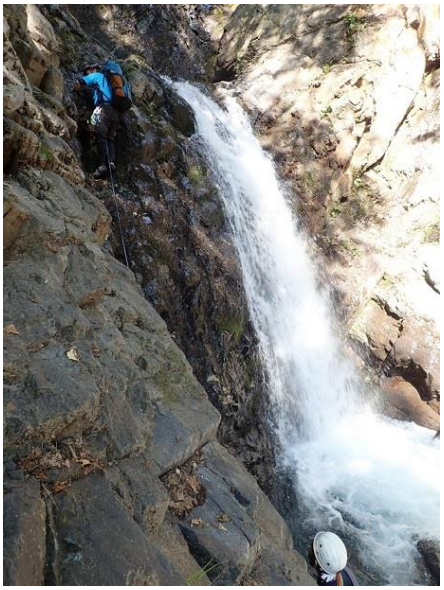
中ア・小黒川本流

記　Ｔ野

2018年8月4日～5日
メンバー　：　Ｔ野　Ｎ野　Ｔ中Ｍ

今年は梅雨がほとんどなく、７月から記録的な猛暑が続いている。街での生活は完全に夏バテ状態。こんな時はやはり涼しい沢登りが最高！！さらにせっかくならこの時期だからこそ楽しめるアルプスの沢が良い。目星をつけていたのが中アの小黒川本流！！突き上げる将棋頭山は自分はまだ未踏だし、山頂付近には高山植物の女王、コマクサが咲いているらしい。濃ヶ池のカール地形もできれば見てみたい。森林限界上の緑のハイマツ帯、咲き誇る高山植物、雄大な山岳風景とメインの沢登り以外にもいろんな魅力が満載！！これこそ、まさしくアルプスの沢だ。偶然にも７月にＩ井さん達がトレースして先を越されてしまったが、その報告メールを読んでもなかなか良さそうだ。さーて、僕らのアルプスの沢、いよいよ開幕です！！



8/3
22：00新宿を出発、交通量はやや多いが何とか順調に走って小黒川ＰＡで仮眠。あずまやがあってテントなしでもＯＫ、都会と違って涼しいし結構快適です。
8/4
本当は仮眠後、そのままＥＴＣ専用出口で高速を降りるつもりだったが、なぜか一度ＰＡに入ってしまうとＥＴＣ専用出口から出るのは逆走扱いになってしまい厳禁ということらしい。車がいないときにこっそりと少しバックすれば行けそうだが、万が一見つかって「アラ還の認知症ドライバー高速を逆走！！」などと書かれたら恥かしいので遠回りだが駒ケ根まで行ってインターを降りて小黒川沿いの入山口、桂小場に向かう。

道は細いがオール舗装道路で桂小場に到着。トイレあり。7：35出発する。しばらく林道を行くがやがて崩れて林道は消失。渓の中を歩く。付近は荒れたゴーロで早くも日当たり抜群！！暑いので日陰を探しながら歩く。すぐに巨大堰堤があり、右岸を階段で越える。その後30分はアトラクションなしでひたすらゴーロを歩く。ゴーロといっても結構傾斜があって何もないとただひたすら一生懸命歩かないといけないので息が切れる。

■写真上　最初のアトラクション、巨大堰堤を越える。

■写真中　核心の滝の1段目をリードする。（撮影・Ｔ中Ｍ）
■写真下　将棋頭沢を過ぎ、渓相が一転、連瀑帯が続く。（撮影・Ｔ中Ｍ）

ところで、今回ラバー底でもフエルト底でも対応できるようにアクアグリップの沢タビ+フエルトワラジのコンビネーションにしたが、結構この渓、ヌメリが強く水の中もツルツルするところがあってフエルト底の方が安心して歩けた。花崗岩の渓はラバー底が有利なことが多く、先日の柿其川はフエルト底で行って悔しい思いをしたので今回は・・・と思って用意したのだがどうやら空振りだったようだ。（ただ後日、Ｉ井さんから「自分はラバー底で行ったがその方が良かった。」というメールをもらった。時期は2週間くらいしか違わないので渓の状態がそんなに変化するとは思えない。まあ、きっと慣れと好みの問題なのだろう。）

さて30分ほど単調なゴーロを歩くと渓が狭まって5mクラスの2段の滝が現れる。ここは問題なく下段は右壁、上段は左壁から越える。そこから約40分はまた単調なゴーロ歩き。やや荒れた渓相を行くとマナイタダラ沢が右岸から貧相な流れで出合い、すぐに結構悪相な8mクラスの2段滝が現れる。記録によると小黒川はこの滝の突破が技術的には核心部のようだ。時間はたっぷりあるので登ってみることにする。下段の8m滝は左壁を登るが下から見ると傾斜もそれほどなくホールド・スタンスも拾えそうだ。実際登ってみるとしっかりしたホールドがあまりなく、ヌメリもあってスタンスも甘いものが多く意外に嫌らしい。一歩踏み出すのに結構勇気がいる。といっても私のレベルでフル装備背負って登ったのだからおそらく3級は越えない。後続は問題なく登ってきた。さて上段の8m、直登は難しいので右岸の側壁を右上するバンドを登る。下段でちょっと緊張したので空身で登ったが、ここは下段と比べると易しい。もし落ちると大きく振られるので途中でハーケンを1本打ち、上部テラスまで登ればしっかり打たれたペツルのボルトがあったのでここで一度後続を確保。Ｎ野が登ったところで私は荷物を回収するために一度下まで懸垂で降りる。その後、Ｎ野確保でＴ中Ｍが登って、Ｔ中Ｍの確保でＮ野が上部バンドをトラバースして滝頭に出てＴ中Ｍのあと私が登って終了。この二つの滝の突破に約1時間かかった。緊張したけど終わってみれば楽しかった！！

■写真上　連瀑帯の跡のプチゴルジュ。

■写真中　1900m付近左岸にある快適なテン場。

■写真下　２日目は最初から白い花崗岩の明るい連瀑帯続き、楽しく越えて行く！！

しかしここから将棋頭沢までまたしばらく平凡。右岸に将棋頭沢を分けるとようやくこの沢の本領が発揮され、美しい花崗岩の連瀑が始まる。スケールは結構大きいが近くまで行くとほとんどが問題なく登ることができて楽しい。明るい連瀑を越えるとプチゴルジュ、途中倒木が挟まっていて興が削がれるがまあまあ楽しく突破する。このプチゴルジュを越え辺りが開けてくれば1900mの左岸に整地済の素晴らしいテン場があり、まだ早いけど今日はここまで。薪も豊富ですぐに集まるが陽もまだ高く暑いので焚き火をする気にならない。まずはとれたての枝豆とビールを楽しみ気持ちよく昼寝、下

界の暑さと比べればまさに天国！！何せ時間とお酒はたっぷりある。至福の時間だ！！

16；00頃になり涼しくなったので焚き火に火をおこし宴会後半戦開始！！Ｔ中Ｍさんの豪華三品の夕食に舌鼓を打ち、焚き火を楽しんでいるといつの間にか時間が過ぎ、豊富な酒も怪しくなってきた。20：00頃就寝。

8/5

快適に眠って朝3：00起床。いつものようにＮ野が火を熾していてすでにお茶もできている。いつも有り難うね！！ゆっくりお茶タイムをして朝食のラーメンを食して5：22出発。

今日は最初から美しい連瀑が続きまさにアルプスの沢だ。滝のスケールは大きいが難しくないので快適にグイグイ登って行ける。東面なので早朝から渓は明るく輝き歓声を上げながら滝を越えていく。2200mの二俣にある快適なテン場までは息もつかせぬ変化に富んだ渓相で来てよかったぁー！！

2200m二俣は本流の左俣を行くと西駒山荘に直接突き上げるが源頭でハイマツの藪漕ぎがあるらしいので我々は藪漕ぎなしで登山道に上がれる右俣をチョイス。少し登ると規模は少し小さくなるが再びナメ滝の連瀑が続く。もう楽しすぎるぜこの渓！！登っても登っても明るい連瀑が続き後方には景色が開けてくる。やがて2450m付近で水が切れるが岩床は続いていて藪漕ぎなしで2630m付近の登山道に上り詰めた。

さてアルプスの稜線を楽しもう！！ということでザックをデポして将棋頭山を目指す。ひと登りで西駒山荘、コマクサが咲き誇っている。さらに私は稜線を濃ヶ池まで行こうと思ったがメンバーはその気がないらしく途中の分岐で将棋頭山に向ってしまう。私は濃ヶ池の途中まで行ったがメンバーがついてこないのに気づき引き返して将棋頭山に向かう。ハイマツのグリーンベルト、木曽駒・宝剣・伊那前岳・空木岳等の中アの主脈が新鮮な角度から望めて大満足、これぞアルプスの稜線！！

■写真上　楽しく登れる連瀑帯が続く。（撮影・Ｔ中Ｍ）
■写真中上　ナメもあるでよ。
■写真中下　2200m二俣の上も登れる滝が続く。
■写真下　上部もこんな感じの連瀑帯。

充分景色を楽しんだら、ザックデポ地まで戻って下山開始。焦らずゆっくり降りていくがもう少しで信大ルート分岐というところでＴ中Ｍさんにアクシデント。転倒したときに足首を捻ったらしい。結構まともに捻ったようなので足首が腫れている。取り合えずテーピングで補強して荷物分けして私のストックをＴ中Ｍさんに貸してゆっくり慎重に下山。このときは軽い捻挫だと思っていた。

しかし翌日Ｔ中Ｍさんが整形外科に行ったところ右足首外果骨折と判明。完治まで2か月半、重傷だったことが分かった。下山で気が緩んだ、ということではないがこういうアクシデントを防ぐにはどうしたらよいのだろう。起こしてしまったこと自体反省なのだが完璧な打開策は見つからない。我々はもう若くないし、骨も若いころと比べればだいぶ脆くなっているのだろう。焦らずゆっくり降りるということくらいしか打開策は思い当たらない。それにしても骨折した足でＴ中Ｍさんはよく自力で降りてきたものだ。下山後もお風呂に行ったりソースカツ丼に舌鼓を打ったり結構優雅に楽しんでいたので大事には至らないと思っていたのに意外な結末にショックを受けた。Ｔ中Ｍさん、しっかり治してまた一緒に行こうね！！そのためにも足首以外はしっかり動かして今の体力と体を維持してちょうらいね。

最後の最後でアクシデントがあって反省点はありましたが、小黒川自体、特に上部は美しく明るく稜線は花がいっぱいで景色も良く、難しいところもあまりないので晴れた夏の日に遡行するにはお奨めの渓でした。

■コースタイム

8/4

桂小場（7：35）～（7：57）堰堤～（8：37）最初の滝場～（9：18）核心の8m2段滝（10：20）～（11：00）将棋頭沢出合～（12：30）1900mテン場

8/5

1900mテン場（5：22）～（6：15）2200m二俣（テン場あり）～（8：30）登山道～（9：30）将棋頭山（9：35）～（9：55）西駒山荘～（14：10）桂小場

※下山はアクシデントのためスローペースのコースタイムです。

■写真上　伊那前岳・宝剣・中岳・木曽駒と中ア主脈がズラリと並ぶ。
■写真中　稜線に咲くコマクサ！！
■写真下　将棋頭山山頂！！